

# 「Jリーグクラブ×大学」パートナーシップの現状

帝京大学 大山ゼミナールA

○田村 瑚子 武田 直也 千頭和 健太  
酒井 紀美香 長橋 郁也 田辺 雄太郎

## 1. 緒言

大学は全入時代が到来している。2018年にはさらに少子化の影響を受け、経営難によって大学が消えてしまう危機が迫っている。Jリーグは地域密着を掲げることで企業スポーツから脱却しプロ化した。人材を育成する教育機関と、法人化によって利益を追求するプロサッカーリーグには、共通するキーワードがある。それは「地域」だ。両者とも「地域」に対して評価を得ることで、経営を安定させようとする組織である。

そこで、Jリーグと大学がどのような背景で「地域」と関わることになったのかを検討した上で、現状Jリーグクラブ(以下Jクラブ)と大学とのパートナーシップはどのような発展を遂げてきているのか、またそれらの関係はどのような傾向があるのか明らかにする。

## 2. 現状

### (1) 大学について

大学は2005年～2009年の間で全入時代に突入したといわれる。全入時代とは少子化の影響で、大学への進学志願者が全員入学できる時代のことである。さらに、近年「2018年問題」が取り上げられている。2017年まで18歳人口は横ばいが予測されるが、2018年から減少が始まる。この減少で大きく影響を受けるのは地方や小規模の私立大学とされる。

全入時代到来に備え、2004年度に認証評価制度が法律で義務化された。その内容は、全ての大学、短期大学、高等専門学校は、7年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けるというもので、この制度は2005年度から実施された。評価の項目には基準が4つある。基準1は使命・目的等、基準2は学修と教授、基準3は経営・管理と財務、基準4は自己点検・評価である。この4つの基準のほかに大学が独自に「基準・基準項目・評価の視点」を設定し、自己点検・評価を行うことが求められている。その基準例として、国際協力・社会貢献・研究活動などが挙げられている。

つまり、大学は地域や社会から評価される組織になった。また、外部との連携をアピールすることで、学生を確保しようとする時代になっている。

### (2) Jリーグについて

1993年、Jリーグは「地域密着」を標榜したプロサッカーリーグとして誕生する。Jクラブは、協会からチームの呼称を「地域名+愛称」にすることや法人化が義務づけられ、企業内部の組織から独立したかたちで経営を要求された。現在J1J2J3のディビジョンがあり、

53 チームが存在し、青森県、福井県、三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、島根県、高知県を除く 38 都道府県に配置されている。その全 J クラブにホームタウン活動と呼ばれる地域活動が義務づけられた。ホームタウン活動とは、「地域に愛されるクラブとなるために、J クラブがホームタウンの人々と心を通わせるためのさまざまな活動」のことである。

つまり、日本で初めて「地域」を意識したプロスポーツが誕生した。

### 3. 調査・研究

2016 年時点での「J クラブ×大学」パートナーシップの実態を調査する。

調査方法は、各クラブのホームページや連携活動の報告を基に行った。さらに、パートナーシップの内容ごとに 4 つの項目に分類した。4 つの項目及び定義は以下の表 1 である。

表 1 4 つの項目及び定義

項目	定義
広告宣伝型	Jリーグのホームページを参考に、大学のロゴがスタジアム・ユニフォーム・練習着・スタッフピス等に掲出されている
育成・人材教育型	Jクラブの下部組織育成の協力や、大学生の実践の場を提供
地域密着型	地域住民に対し、産学連携で活動している
ファン・マネジメント型	Jクラブのファンに対する企画及びイベント

### 4. 結果

パートナーシップには、「スポンサー」契約または J クラブと大学の間で金銭的取引が発生しない「連携協定」という契約の 2 種類がある。柏レイソルを除く J1J2 全てのクラブが大学とパートナーシップを締結しており、「J クラブ×大学」パートナーシップの形は全部で 123 である。

複数の大学とパートナーシップを締結しているクラブは、40 クラブ中、(FC 東京、ジュビロ磐田、名古屋グランパス、セレッソ大阪、レノファ山口 FC を除く)35 クラブである。

1 クラブで複数の大学が同じスポンサー契約のカテゴリになっているのは、J1 では「大宮アルディージャ×聖学院大学、西武文理大学」「横浜 F・マリノス×鶴見大学、横浜女子短期大学」「ヴァンフォーレ甲府×帝京科学大学、山梨学院大学」「ガンバ大阪×追手門学院大学、大阪国際大学」「ヴィッセル神戸×神戸親和女子、神戸学院大学」「ヴィッセル神戸×神戸女子大学、関西国際大学」「サンフレッチェ広島×福山大学、福山平成大学、広島経済大学、安田女子大学」「サガン鳥栖×佐賀大学、久留米大学、西九州大学」である。J2 では、「モンテディオ山形×山形大学、東北公益文科大学」「モンテディオ山形×東北文教大学、山形県立保健医療大学」「ジェフユナイテッド千葉×敬愛大学、淑徳大学、城西国際大学」「ツエーゲン金沢×金沢医科大学、北陸大学」「ファジアーノ岡山×岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、岡山大学、吉備国際大学」「ファジアーノ岡山×岡山大学脳神経外科サッカー部、岡山大学医学部放射線科、就実大学」「カマタマーレ讃岐×香川大学、四国学院大学、高松大学、徳島文理大学」「徳島ヴォルティス×四国大学、徳島文理大学、徳島大学、鳴門教育大学」「ロアッソ熊本×熊本学園大学、熊本大学、崇城大学、東海大学」である。

複数のクラブとパートナーシップを締結している大学は、茨城大学(鹿島アントラーズ、

水戸ホーリーホック)埼玉大学(浦和レッズ、大宮アルディージャ)、昭和大学(川崎フロンターレ、ヴァンフォーレ甲府)、神奈川大学(横浜F・マリノス、横浜FC)、徳島文理大学(カマタマーレ讃岐、徳島ヴォルティス)である。

つまり、1クラブにつき複数の大学がスポンサーや連携という形でパートナーシップを締結していることが分かった。スポンサーという形で契約を結ばない大学でも、クラブへの関わり方によって連携協定としてパートナーシップを締結することが可能である。

また、パートナーシップの内容から広告スポンサー型、育成・人材共有型、地域貢献型、ファンマネジメント型の4つに分類したところ、以下の図1(上J1、下J2)のようになる。J1J2共に広告スポンサー型、広告スポンサー型と育成・人材共有型、広告スポンサー型とファンマネジメント型の3つに集中していることが明らかになった。

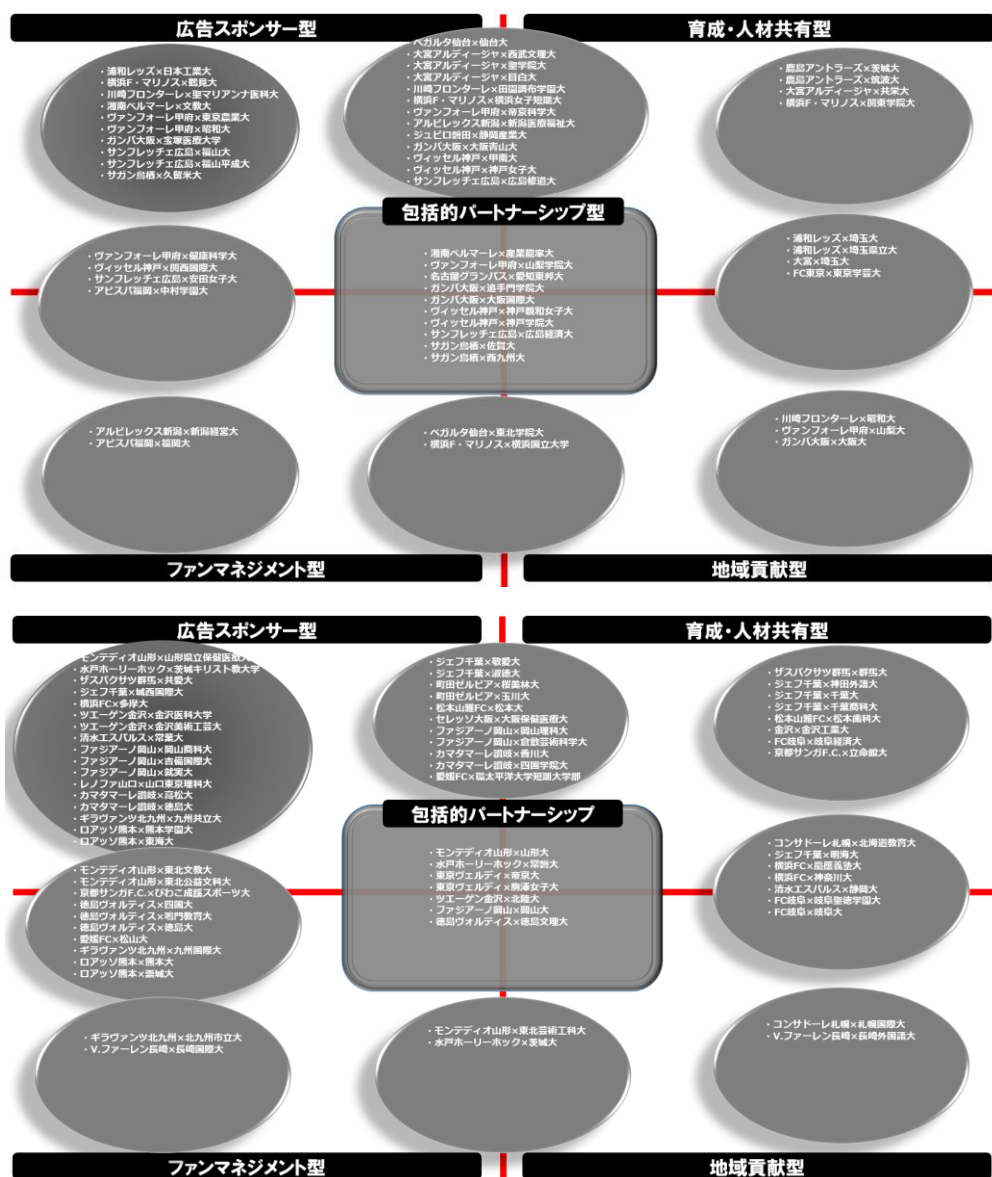


図1 パートナーシップ内容の分布

## 5. 提言

Jクラブは、リーグの理念である「地域密着」を実現させるために各クラブが独自の活動（ホームタウン活動）を行っている。大学はJクラブが取り組む地域貢献活動と連携を組むことで、両者にとって新しいパートナー、あるいはステークホルダーとなってきた。大学が持つ豊富な資源を活用している J クラブが多く散見され、それぞれのパートナーシップ契約の内容は多様化しており、Jクラブは各大学が求める「社会連携・社会貢献」や「大学生の育成プログラム」などを把握し、時代の流れに適応するパートナーシッププログラムが深化することが期待される。

## 6. まとめ

Jクラブも大学も、それぞれが抱える経営の課題がある。その課題を解決しようと地域を意識した活動を重視する両者は、どのようにして資源を活用するのか、またJクラブと大学のパートナーシップは多様性が見られるため、それぞれの実態は異なる。つまり、各地域によって、各Jクラブによって、それらは全て独自の展開を遂げている。

### <参考資料・参考文献>

- ・公益社団法人 日本高等教育評価機構 ホームページ  
<http://www.jihee.or.jp/>
- ・Jリーグ公式ホームページ About Jリーグ  
<http://www.jleague.jp/aboutj/>
- ・日本経済新聞：「大学全員入学 2007 到来 定員割れ 経営難も」, 7月20日, 2014
- ・日本経済新聞：「2018年問題の先に 社会に通じる個性を磨く」, 1月19日, 2015